

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872200809		
法人名	社会福祉法人はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホームまどか		
所在地	兵庫県加古川市野口町長砂1076		
自己評価作成日	平成25年2月11日	評価結果市町村受理日	2013年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、医療と看護と連携を密にし利用者が安心して日常生活が送れるように援助している。又、平成18年度から看取り加算制度も取り入れ認知症の高齢者が住み慣れた場所で最期迄暮らしていただけるようにしている。  
 各々の利用者は一人の社会人として誇りと自信を持って過ごしていただけるよう自身の思うままに自由に生活していただいている。日中は玄関の施錠はせず外出も自由である。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は加古川市の旧市街にあり、馴染みの濃い地域である。開設から10年以上経過し、認知症の進行とともに重度化が常態化したなかで、その人の望む人生の終末を家族と職員が共に過ごし、最後までその人の誇りを大事にした支援に努めている。状態が低下しても、個々の嚙下状態に応じた調理法の工夫や代替食、好みの物等口から食べることを重視し、同時に排泄においても細やかな配慮に努めている。普通の生活の営みを大事にした暮らしの中で、職員は、一人の人として自然にふるまい見守っている。そのことは利用者のほっこりした表情からもうかがえる。利用者自ら外出することが少なくなってきたが、これからの季節は散歩の機会もきっと増えるのではないだろうか。訪問時の利用者の穏やかな表情がいつまでも続くことを願ひ、継続した取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない (2~3名)	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らの有している能力を充分に発揮し乍ら最後まで自信と誇りを持って生活していただくことを理念とし、そのことの実現のために全職員が日々のケアに当たっている。さらに利用者が地域住人の一人として暮らしにいけるような支援も目指している。	日常生活の中で利用者と接し、関わりを通じてその人のペースに沿った見守りに努め、さりげない支援に努めている。本人の思いを受けとめ、無理強いにならないよう声かけにも配慮している。職員は利用者との信頼関係を築くことを大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し会費も負担している。毎月市の広報や回覧等も届いている。夏祭りの案内も頂き可能な限り参加もしている。秋の祭りには子供みこしが立ち寄ってくれている。日常的に外出する利用者にも色々気に掛けてもらっている。	自治会に所属し、地元の情報を参考に、できるだけ参加交流するようにしている。参加できる利用者が限定されるが、継続的な交流や機関誌の配布により馴染みの関係が深まってきている。散歩の折には、気軽に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度法人全体で「介護について語ろう会」という集まりを開催し、地域の住民の方に参加して頂いている。認知症の理解と地域の方と施設が協力し合って認知症の高齢者を支援していくことを目的としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2か月毎に開催している。民生委員、人権擁護委員、家族、地域包括支援センター施設管理者が出席している。議題としてはまず事業報告を行い、対しての意見や提案を頂いたり地域との連携の大切さ等を話し合っている。	事業所だけでなく、法人全体としての取り組みを報告している。事故等や終末期の報告を通じて、認知症への理解や家族との信頼関係、地域との協力関係の必要性も発信している。地域代表者や家族とは、介護の現状、課題も交え、活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず地域包括の職員が出席してくれている。市の介護保険課にも毎回案内を送っているが出席はして頂いていない。会議の内容は都度市に報告をしている。	法人を通じて必要な情報や状況報告はできており、協力体制は確保されている。会議記録等、内容の報告も随時行い、必要があれば相談等も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の定義が解り難い部分も多々有るが法人の介護理念に基づき日々のケアの中で認識してもらっている。日中に外出希望される方は制止しないで自由に出てもらっている。玄関の施錠はしていない。	法人理念に基づき、拘束はしていない。その人自らの行動を尊重し、意思を優先させ、自由に過ごしてもらっている。職員は法人内研修で学び、会議等で共有を図り、日々の業務において常に見守り、個々の状態把握に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人一人が人として社会人としての権利を確保されることに配慮し乍らケアに当たっている。新聞ニュース等で報じられた際には事業所の会議で議題として取り上げ皆で話し合っている。資料も整えている。	管理者は会議内で、虐待に関する基本的部分をおさえて、日々の声かけや接し方について職員に注意を促している。外部研修で、他施設での事例を基にグループワークにより職員の意識を高め、現場で反映している。普段から身近な事例を活かし、話す機会を持っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が成年後見制度を利用している。他にも相談があれば司法書士を紹介し制度につなげたいと思っている。職員全体での研修は行っていないが、制度に関心のある職員は資料に目を通している。	管理者は制度を理解し、必要に応じて家族等への情報提供を行い、家族からも相談を受けることもあり、必要な支援につなげている。現在該当者がおり、職員も把握はしているが、研修としての学びの機会はまだまだである。	参考にできる事例を活かし、職員にとっての学びの機会を検討されてはいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず当事者と家族に会い重要事項説明書を基に施設の理念、介護方針等を説明し充分納得していただいた上で契約している。又施設内の見学もしていただいている。	法人窓口からの相談が主で、法人理念の理解、納得を得ることを重視している。そのうえで、医療に関することや費用についてわかりやすく説明し、個々の状況に応じた相談にも応じている。見学は自由にしてもらい、他利用者の様子からも雰囲気を感じてもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には常時ご意見箱を設置している。月に一度第三者委員会を開催、その際に開錠しご意見を運営改善に役立てている。又来訪時には出来るだけ話し合いの時間を設けている。	利用者の些細な変化も随時、電話等で報告し、状態について双方向での共有を図っている。その際に、家族の意向も聞き相談を受けることもある。来訪の場合は、別途時間を設け、話しをするようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕のミーティングと月に一度開催している会議で自由に発言してもらっている。其の他いつでも気づきがある時は耳を傾けるようにしている。	全体会議や日々の申し送り時は、職員が主体的に運営し、意見や提案を出せる機会としている。個々の意見を尊重し合い、自由な意見交換ができている。管理者は日頃から職員の気づきを促すとともに、さりげなく声をかける配慮にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課と自己申告は年に1回行っている。又個々に面談の時間を設け希望を聞き出来るだけ添えるようにしている。又資格を取得した際には昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修、グループホーム協会の研修等参加を促している。又外部の研修の際には勤務の工夫を出来るだけ安心して研修に出掛けられるように配慮している。報告は法人全体会議で発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一度近隣の市町と連携し勉強会を開催し交流をしている。年に一度総会も開催し講演会も行っている。実習生の要請は快く受けている(リーダー研修、開設者研修、学生等)。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時は家族や関係者から情報を収集し、家族との連絡を密にして本人との会話、行動を観察しながら得たことをケアプランに取り入れ、その人らしい生活が送れる様援助している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に本人や家族から不安や疑問を細かく聞き取り支援に役立っている。入居後に要望や疑問があればその都度話し合い解決していく。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態により出来ること出来ないことを見極め、家族の思いも考えながらサービス計画を立て、本人の能力を生かせる様支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食べ終わった食器を台所まで運んでもらう。また料理の味付を聞き毎日の献立に役立っている。昼食の献立は利用者も職員も同じである。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、職員と家族が情報を共有し、協力して生活を支援している。ケアプラン、モニタリングの説明時には話し合い、日々のケアについて希望も聞いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問は自由で利用者と共に自室やホールで過ごしていただいている。また家族と外出される方も居られる。	地域の行事参加の折に、地元の人と交流する機会や、家族にも協力をお願いし、家族とともにしばし自宅で過ごすこともある。身内の来訪も歓迎し、訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、必要に応じてお誘いの声かけをしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、お互いが良い関係を保てる様配慮している。テーブル席は自身で好みの場所を選ぶ方も居られるが、そうでない方は職員が状態を見ながら介入することもある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の相談室各事業所も相談、アドバイス等の対応はしている。又月に一度発行している園の機関誌を送付し施設の近況や行事の案内をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のバックグラウンドの情報を家族やその他の関係者から得た上で可能な限り本人の意向に沿った生活を継続していただけるような援助をしている。	これまでの利用者との関わりや共同生活の中から、安心して気持ちをほぐしてもらうことで、その人の表情や会話から思いを察知するようにしている。言葉に現わすことが難しい場合も多いが、名前を呼ぶと安心され、その表情から汲み取れることもある。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の訴えやキーパーソンの希望を聞き乍らその人らしく生活していただけるよう援助している。又家族が来訪された時は現時点で提供しているサービスの内容を報告し意見を聞いている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の日々の状態を観察し乍ら自由に過ごして頂いている。自身で出来ることはなるべくしていただき、過剰な手出しはせず現存能力を正しく見極め自立と自信を持った生活が出来るように対応している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの利用者に担当者を決め、日々の細かい変化にも注目し、記録を残し引き継ぎの時や会議の場で意見交換をしている。家族や関係者とも連携を取り乍らケアプランを作成している。担当者は6か月毎に交替している。	担当制により、利用者の思いに近づけ、理解が深まることで日頃の観察にも集中でき、その人の計画作成の際に活かされている。家族とも普段から密な協力関係ができ、家族の意向が反映されたより本人のための計画となっている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に一週間の生活状況が把握出来る用紙に記録し全職員が共有している。又、変化があれば計画の見直しもしている。細かい日々の連絡事項はノートを利用し、業務に就く前に必ず目を通している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット(Ⅱ)は30㎡とスペースが有る為希望があれば同居者も受け入れている。又家族が宿泊することも出来る。時々利用者と一緒に食事を希望される方がいるが実費を徴収するが柔軟に対応している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的には外出は自由にさせていただいている。職員が少し離れて見守りはしているが見失う等行き届かない時は地域の方に情報をいただくことも有り大変助かっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は各利用者と家族が自由に決めていただいている。入居前の主治医と継続して利用する方も居られるが、法人全体の嘱託医に変更される方も居る。月に1~2度往診してくれている。	受診に関しては家族対応であり、主治医の選択は自由な為、入所前からの主治医を受診される利用者もいる。ほとんどの利用者は法人の嘱託医で、日常の健康状態を把握しており、緊急時の対応も安心できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理の為週一度訪看ステーションからの派遣が有る。都度情報交換をし利用者が安心して生活が出来るよう配慮している。又、緊急時には電話で相談をする等看護の立場でのアドバイスもしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、施設が連携を密にし早期退院に向けて医療機関からの情報を得ている。又退院の目処がついた時点でカンファレンスを実施し日常生活の中での注意点等アドバイスをもらうことも有る。	一日も早く退院して事業所に戻りたいという利用者と家族の気持ちを尊重し、できる限り意向に沿えるよう早期に、医師、家族、事業所との話し合いを行っている。事業所での終末期を家族が強く望み、退院後事業所に戻られ、穏やかな余生を過ごされた利用者もいる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に希望があれば看取りも可能であることを説明している。機能低下に依り心身に変化が起きた時は其の都度家族と話し合い施設で出来ることを充分説明し意向を伺っている。チーム全員がその意向に添った支援をしている。	入居時に事業者が行える看取りについて説明を行っているが、身体機能の衰えから医師より看取りの時期に入ったとの指示があれば、家族、主治医がその都度十分な話し合いを行う。利用者は、家族、馴染みのある職員に見守られながら、自然な形で終末期を迎えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や転倒等のリスクが生じた時の対応方法は事業所毎の会議の際に共通認識をしている。定期的な訓練は実施していないがマニュアルは備えている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。災害や火災がニュースで報じられた時は話し合いの機会を設けている。訓練の際近隣住民の方の協力は中々得難いのが現状である。	夜間想定も含め年2回の避難訓練を行っている。また災害時に事業所が地域住民の福祉避難場所と指定されたが、事業所内の利用者の生活に支障をきたさない受け入れ体制等や、地域との連携についての近隣住民の理解を得るには、まだ至っていない。	事業所が、災害時の福祉避難場所として指定されたのを機に、地域との連携を今後いかに図っていくかについて、地域へ働きかけてみてはいかか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として又一人の社会人としてのプライドを守り、一人一人の個性にあった生活をしていただくような接し方をしている。職員間では他の利用者にも気を配り個人名を出さないような配慮をしている。	身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為は行わないという事業所の方針も利用者の人格を尊重することに繋がっている。また職員間でも利用者で特定できる内容の話題には気をつけるなど、日々プライバシーを守るよう注意している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さりげない声掛けや傾聴に努め決して職員の思いを押しつけない。本人が思いを充分表現出来ない時は表情を察し乍らその希望に近づけるような対応をしていく。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で一人一人のペースを大切に希望に添うようにしている。何事も強引に実施せず状態を見ながら時間を置いたり職員が変わる等している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人に服を選んでもらっている。季節にあった衣類の調整を行っている。家族にも協力をいただき動き易い素材の物等購入依頼をしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	対面キッチンでの食事を作る事によって会話をしながら盛り付け等を一緒にする事により家庭的な雰囲気を作りだすようにしている。献立の希望も聞き出来るだけ実現に努力している。	食事介助の必要な重度の利用者も、それぞれが食堂に集い、共に食事を楽しみ、口から食べるということを最優先している。対面キッチンからは料理の匂い、食器の音、職員との会話等が聞こえ、利用者は五感を通じ、日常生活の雰囲気を楽しんでいる。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下能力、体調によって食事形態を変え提供している。水分量にも気をつけトロミをつける等の気配りを行い1日の摂取量の記録をつけている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じて歯ブラシ、スポンジ等対応を考え口腔保清をしている。義歯を使用される方については洗浄剤を使うことにより清潔を保つよう心がけている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状態を記録しトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの生活リズムを把握できるよう工夫された記録により、個別の排泄パターンを知ることができる。意志表示のできない利用者も、その人独自のパターンに沿ったトイレ誘導をすることで、失敗の回数が減り、排泄の自立にも繋がるケアがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を記録し把握、牛乳やヨーグルトを勧めたり水分摂取を促すなど対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があったら時間を置いて再度声掛けしている。一人一人のタイミングに合わせている。又好みのシャンプーやボディソープを用意して使用している。	重度の利用者にも清拭だけでなく、体調の良い時は二人介助で入浴を行い心地好い時間を過ごして貰う。誘導時に拒否がある利用者も、声かけのタイミングを見計らって上手に声かけをし、強制せずに個々にそった工夫を凝らしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握し必要に応じて日中でも居室で休養していただいている。又、必要に応じて室内のレイアウトの変更もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の状態に合わせ主治医や看護師と連携をとっている。処方箋をファイルしてすぐに確認出来る体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を把握し手伝い等の役割をもってもらい日々の生活にメリハリをもってもらおう。園や地域の行事等に参加し気分転換を図ってもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本外出は自由になっている。一人一人に応じて見守り、付添と対応の仕方を変えている。地域の行事にも参加、外出時の地域の方の見守り支援もある。家族と一緒に外出される方も居られる。	高齢化によって、自由に外出できる利用者も少なくなっており、出来るだけ外気浴も兼ねて職員と散歩をすることもある。事業所の方針として、外出は自由になっているが、地域の人から利用者が一人で散歩をしているのを見つけ、連絡をもらったこともある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心される方には所持していただいている。自由に近所のお店で買い物に出かけていただく事もある。本人の気付かない所での見守りはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階ホールに公衆電話を設置しているので使用は自由である。また、手紙の宛先等の代筆をしたり投函もしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のキッチンから料理の香りや包丁で野菜等を刻む音がし、ガラス越しに庭を見え、季節の野菜や花等を栽培している。2階ホールでは、造形教室等に使用している。テレビを設置しているので自由に一人で過ごす事もできる。	利用者が憩う食堂を兼ねた居間には対面式のキッチンが設置され、食事支度の気配に利用者も料理を心待ちする楽しい空間となっている。居間に面した広い硝子窓からは四季折りおりの風景と住民の日常の生活が伺える。共用トイレの入口に足ふきマットが敷かれ、その都度靴の裏が拭け清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階にソファ、テーブル、椅子を置いており、気分に合わせて過ごしていただいている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具等や、また仏壇を設置されている方もおられる。家族の写真やぬいぐるみ、花等を持参されている。	個室としても広さがあり、大きな窓は風通しも良く、より広々とした空間を感じさせる。居室内のトイレも掃除が行き届いているので、匂いもなく清潔な空間となっている。利用者の好みにあった調度品や飾りで落ち着いた環境作りがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。階段、廊下には手すりを取り付けており、2階の階段には落下防止の為の扉を設置している。エレベーターを使用してもらうよう促しもしている。		